神が共におられた人々④：ヨセフ

原田元道

ヨセフの生涯（略歴）

- ヤコブの 11 番目の息子(ラケルとの間の最初の息子)として誕生する(創世記 30:22-24)
- 17 歳の時、**家族が自分にひれ伏す夢を見る**(創世記 37:1-11)
- 兄たちによって商人に売り渡され、エジプトのファラオの侍従長ポティファルの奴隷となる(創世記 37:12-36)
- **ポティファルの信認を得て家の全財産の管理を任される(創世記 39:1-6)**
- **ポティファルの妻に逆恨みされ、無実の罪で牢獄に入れられる (創世記 39:7-20)**
- **牢獄長の信認を得て牢獄の管理を任される(創世記 39:21-23)**
- 28 歳の時、監獄に入れられたファラオの家来が見た夢を解き明かす(創世記 40:1-23)
- 30 歳の時、ファラオが見た夢を解き明かし、ファラオに次ぐ地位を得る(創世記 41:1-46)
- 38 歳の時、飢饉のためにエジプトに食料を買い求めにやって来たヨセフの兄たちはヨセフと知らずに彼の前にひれ伏す(創世記 42:1-6)**←ヨセフが見た夢の成就**
- 39 歳の時、再度エジプトに食料を求めにやってきた兄たちに自らの身分を明かし、一族全員がエジプトに移住するように勧める(創世記 43—45 章)
- エジプトにて 110 歳の生涯を終える(創世記 50:22-26)

売り渡されるヨセフ

- **父からの寵愛(偏愛)**
  「ヨセフは年寄り子であったから、イスラエルは他のどの子よりも彼を愛して、彼のために長そでの着物をつくった。」(創世記 37:3；比較：創世記 25:28；29:30)

- **兄たちからの憎悪と嫉妬**
  「兄弟たちは父がどの兄弟よりも彼を愛するのを見て、彼を憎み、穏やかに彼に語ることができなかった。ある時、ヨセフは夢を見て、それを兄弟たちに話したので、彼らは、ますます彼を憎んだ。…兄弟たちは彼をねたんだ。しかし父はこの言葉を心にとめた。」(創世記 37:4-5, 11)
  →商人に売り渡される(創世記 37:12-36)
  - ✧ 兄たちに対する疑念や不信
  - ✧ 家族（父や弟）に会えない寂しさや悲しさ
  - ✧ 異国の地での奴隷生活に対する不安や恐れ

  ⇒これまで経験したことのない孤独と恐怖、そして絶望

- **主からの祝福**
  「主がヨセフと共におられたので、彼は幸運な者となり、その主人エジプトびとの家におった。」(創世記 39:2)
  ⇒最も悲惨な状況にあって神様が共にいてくださるという祝福

牢獄に入れられるヨセフ

- **家の主人からの信認**
  「その主人は主が彼とともにおられることと、主が彼の手のすることをすべて栄えさせられるのを見た。そこで、ヨセフは彼の前に恵みを得、そのそば近く仕えた。彼はヨセフに家をつかさどらせ、持ち物をみな彼の手にゆだねた。彼がヨセフに家とすべての持ち物をつかさどらせた時から、主はヨセフのゆえにそのエジプトびとの家を恵まれたので、主の恵みは彼

の家と畑とにあるすべての持ち物に及んだ。」(創世記 39:3-5；比較：創世記 22:18)
⇒ヨセフを通して広がる神の祝福

・ 主人の妻からの誘惑
「これらの事の後、主人の妻はヨセフに目をつけて言った、『わたしと寝なさい』。…彼女は毎日ヨセフに言い寄ったけれども、ヨセフは聞きいれず、彼女と寝なかった。また共にいなかった。」(創世記 39:7, 10)
→逆恨みされ、無実の罪で牢獄に入れられる(創世記 39:11-20)
⇒神様が共にいたとしても苦難や困難は経験する

・ 主からの恩恵
「主はヨセフと共におられて彼にいつくしみを垂れ、獄屋番の恵みをうけさせられた。獄屋番は獄屋におるすべての囚人をヨセフの手にゆだねたので、彼はそこでするすべての事をおこなった。獄屋番は彼の手にゆだねた事はいっさい顧みなかった。主がヨセフと共におられたからである。主は彼のなす事を栄えさせられた。」(創世記 39:21-23)
⇒苦難や困難の中で示される神の恵みと慈しみ

いついかなるときもあなたと共にいて
あなたの苦しみ、悲しみ、痛みに寄り添ってくださるイエス

あしあと

ある夜、わたしは夢を見た。
わたしは、主とともに、なぎさを歩いていた。
暗い夜空に、これまでのわたしの人生が映し出された。
どの光景にも、砂の上にふたりのあしあとが残されていた。
ひとつはわたしのあしあと、もう一つは主のあしあとであった。
これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、
わたしは、砂の上のあしあとに目を留めた。
そこには一つのあしあとしかなかった。
わたしの人生でいちばんつらく、悲しい時だった。
このことがいつもわたしの心を乱していたので、
わたしはその悩みについて主にお尋ねした。
「主よ。わたしがあなたに従うと決心したとき、
あなたは、すべての道において、わたしとともに歩み、
わたしと語り合ってくださると約束されました。
それなのに、わたしの人生のいちばんつらい時、
ひとりのあしあとしかなかったのです。
いちばんあなたを必要としたときに、
あなたが、なぜ、わたしを捨てられたのか、
わたしにはわかりません。」
主は、ささやかれた。
「わたしの大切な子よ。
わたしは、あなたを愛している。あなたを決して捨てたりはしない。
ましてや、苦しみや試みの時に。
あしあとがひとつだったとき、
わたしはあなたを背負って歩いていた。」

マーガレット・F・パワーズ
translation copyright(C)1996 by Pacific Broadcasting Association